

(様式2)

## 令和5年度 学校経営報告（学校評価報告書）

四條畷市立四條畷中学校

校長 河上 弘子

### 1 学校経営方針

#### ●学校教育目標

《心を磨く》強い意志と豊かな心を持ったたくましい生徒の育成

《人に学ぶ》自ら学ぶ意欲と考える力を持った生徒の育成

#### ●育てたい生徒像

しなやかに、たくましく生きる生徒の育成

#### ●令和5年度重点目標

学校は安全・安心な場所

「みんな大事 ～私もあなたも大事な仲間～」

(1) 楽しい学校づくり

(2) 集団づくり・居場所づくり

(3) 安全・安心な学校づくり

(4) 「わかる」「できる」をめざした授業改善

(5) 行事やクラブなどへの積極的な取り組み

(6) あたりまえの日常の大切さ

(7) 頑張っている生徒が報われる

### 2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	しなやかで、たくましい学校
★めざす子ども像	しなやかで、たくましい生徒
★めざす教師像	しなやかで、たくましい教師集団

(様式2)

### 3 学校の現状（よさと課題）

#### (1) 子どもたちの実態

学校生活全般において素直に積極的に取り組める生徒が多く、学習面でも「わかりたい」、行事に関しても「やってみたい」と前向きな思いを持っている。

一方で、自分の発言を周りがどう思っているかを気にする動きや、周りに同調して、自分の意思どおりに行動できない場合もあり、安心して自分の意思を表出できる集団づくりが必要である。

保護者の子どもへの対応が、過保護・過干渉またはネグレクト気味の両極の場合があり、過保護・過干渉の場合、保護者の言動に大きく影響を受けた子どものふるまいが見られ、ネグレクト気味の場合は、無気力や自身を大切にできないような振る舞いが見られる。そのため、自立をめざして、自己選択・自己決定を促すことが課題である。

また、家庭での学習習慣に課題のある生徒も多く、学習・生活ともに、主体的に取り組むしかけが必要である。

#### (2) 子どもたちを取り巻く環境

##### ①教育環境

統合により校区も広くなり、生活環境（経済的なこと含む）や家庭状況は様々である。多様な保護者の考え方に影響を受ける子どもたちも多く、その考え方も多様であり、「違いがあっても当然であること」「違いを認めること」また、違いを「受け入れ合う力」がより大切である。

##### ②地域

全体的に学校教育に関しては協力的な地域である。保護者も（時に代々）卒業生であることも珍しくない。この3年間、新型コロナウイルス感染症対策で、地域の活動がほぼできず交流する機会がなかったと聞いている。コミュニティスクールの取組みの推進とともに、令和の時代の地域との連携の在り方を模索していきたい。

##### ③組織（教職員、PTA、保護者）

###### ・教職員

子どもに丁寧に寄り添い、繋がろうとしており、とても熱心に日々の指導・支援に取り組んでいる。世代交代が一気に進み、若干のベテラン層はいるものの、30代が中心ではあるが20～50代の年齢幅の大きい教員構成である。主任や主事、部長などは、いわゆるミドルリーダーが担っており、学校運営はスムーズに進む。「育成」の観点により、いわゆる若手に経験をさせながら、組織としてイメージをそろえながら取り組んでいこうとしている。

###### ・PTA、保護者

PTAはとても協力的であり、十分に情報共有・連携ができており、学校運営の大きな支えとなっている。保護者は概ね学校教育に熱心で理解もあるが、地域によって考え方は多様化してきている。今年度よりPTA活動への加入が任意になり、今後、その在り方を検討していく必要がある。

### 4 今年度の達成目標、具体的な方策

#### 目標設定区分1 『学校経営』

##### A 今年度の成果目標

学校は安全・安心な場所  
「みんな大事～私もあなたも大事な仲間～」  
(1) 楽しい学校づくり  
(2) 集団づくり・居場所づくり

##### 達成基準（各種調査、アンケート等）

学習・学校生活に関するアンケート（生徒・教員）において積極的に  
取り組む姿勢と達成感の味わえる肯定的意見  
A: 学校に来ることは楽しいですか  
B: クラスや班の活動で、しっかりと話し合い自分たちの力で課題に向

(様式2)

<p>(3)安全・安心な学校づくり  (4)「わかる」「できる」をめざした授業改善  (5)行事やクラブなどへの積極的な取り組み  (6)あたりまえの日常の大切さ  (7)頑張っている生徒が報われる</p>	<p>かって取り組みますか  C:安心して発言できる、居心地のいいクラスづくりに取り組んでいますか  D:分からないことや困ったことがあると人に聞くことができますか  E:学校の授業はよくわかりますか  F:学校では授業に積極的に取り組んでいますか。  G:みんなで何かをすることは楽しいですか  H:行事やクラブ活動などに積極的に取り組んでいますか  I:みんなのために進んで委員や係など自分の役割を果たすことができますか  J:一日の生活を大事に過ごすことができました  K:集団づくりについて学校組織として取り組むことができました  L:「わかる」「できる」をめざした授業改善に積極的に取り組んだ</p>
---	---

**B 目標実現に向けた取り組み**

項目	達成基準	結果	評価
(1)楽しい学校づくり	A:80%以上 *肯定的回答	A:89.5%	・生徒会・委員会・係活動を活発化し、達成感を感じさせることができた
(2)集団づくり・居場所づくり	B:80%以上 K:85%以上 *肯定的回答	B:82.6% K:94.5%	・班活動、グループ活動を活発に取り入れ、集団づくりをすすめた ・教育支援ルームなど、個に応じた居場所づくりの充実が図れた
(3)安全・安心な学校づくり	C:80%以上 D:85%以上 *肯定的回答	C:100% D:94.9%	・道徳、人権教育で、認め合う優しい心の育成を全教職員で進めた ・人権意識を高く持ち、子どもの発言・行動を見守る ・班やグループ活動を通じて、人との関わり方を身につけさせることに努めた ・アンテナを高く持ち、いじめのない安心な学校づくりを進め、子どもの気持ちに寄り添い、生徒の課題解決に取り組んだ
(4)わかる」「できる」をめざした授業改善	E:80%以上 F:85%以上 L:85%以上 *肯定的回答	E:86.1% F:89.1% L:97.1%	・自分の授業を見つめ直し、教科部会で交流を深めた ・研究授業を実施し、子どもの「わかる」「できる」につながる研究を進めた ・授業のあり方、評価の方法について研鑽を深めた
(5)行事やクラブへの積極的な取り組み	H:85%以上 *肯定的回答	H:88.9%	・子どもたち主体で、いろいろな取り組みを企画・運営し、成功体験を増やすことができた ・クラブ活動を充実させ、子どもの活躍の場をつくり、好きなこと、得意なことで達成感を味わせた
(6)あたりまえの日常の大切さ	I:85%以上 *肯定的回答	I:89.8%	・安心したクラス運営（HR・休み時間の過ごし方）に努めた

(様式2)

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書で一日の始まりを心静かに始め、また、文章を読む習慣を身につけさせている</li> <li>・給食・食育指導の推進、丁寧な清掃活動で、自分たちの学校を大事にする気持ちを育てた</li> </ul>
(7) 頑張っている生徒が報われる	C:80%以上 I:85%以上 *肯定的回答	C:100% I:89.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導規律の共通認識を図れた</li> <li>・頑張った生徒を承認する場や機会を設定した</li> </ul>

## 目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標	達成基準 (各種調査、アンケート等)		
●各部・各委員会組織の活性化とイメージの共有 (1)円滑な教育課程の履行 効率的な業務遂行とコミュニケーション (2)衛生的な給食・清掃活動、安全指導 基本的な感染症予防対策 (3)安心な場で自分の学びをつかみとる だれひとり取り残さない教育活動 (4)集団づくりを中心に、つながりを大事に考える取組の推進 委員会活動の充実 (5)規律の共通認識と生徒理解 「ともに学びともに育つ」	学習・学校生活に関するアンケート(生徒・教員)において積極的に取り組む姿勢と達成感の味える肯定的意見と年度末総括 A:学校の状況や課題に対し、全職員で組織的に取り組んでいますか B:学校の授業はよくわかりますか C:授業改善に積極的に取り組みましたか D:自分や友達の良いところを見つけることができますか E:人権、道徳の授業の推進に取り組んだ F:クラスや班の活動で、しっかりと話し合い自分たちの力で課題に向かって取り組めますか G:安心して発言できる居心地のいいクラスづくりに取り組んでいますか H:行事やクラブ活動などに積極的に取り組んでいますか I:みんなのために進んで委員や係など自分の役割を果たすことができますか J:一日の生活を大事に過ごすことができました K:集団づくりについて学校組織として取り組むことができました L:「わかる」「できる」をめざした授業改善に積極的に取り組んだ M:年度末総括の分析		
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
(1)教育課程の履行 効率的な業務遂行とコミュニケーション	A:85%以上 *肯定的回答	A:89.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の確実な履行に努めた</li> <li>・教員の効果的な働き方を考え、困り感を見つけ解決の方策を検討した</li> <li>・ICT 機器等の管理を確認し、授業に必要なものの整備を行った</li> </ul>
(2)衛生的な給食・清掃活動、安全指導 基本的な感染症対策	I:85%以上 *肯定的回答	I:89.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して給食当番、清掃活動にあたらせ、自分たちの学校を大事にする気持ちを育てた</li> <li>・防災訓練、ヒヤリハットによる危機管理について共通認識を図れた</li> <li>・基本的な感染対策の徹底</li> </ul>

(様式2)

(3)安心な場で自分の学びをつかみとる だれひとり取り残さない教育活動	B:80%以上 C:85%以上 L:85%以上 *肯定的回答	B:82.6% C:100% L:97.1%	・研究授業を企画・運営し、授業改善において教員相互で授業見学ができた ・人権、道徳、総合の時間を活用し、生徒の気持ちに寄り添った内容の取り組みを計画的に進めた
(4)集団づくりを中心に、つながりを大事に考える 取組の推進 委員会活動の充実	F:80%以上 H:85%以上 I:85%以上 K:85%以上 *肯定的回答	F:89.1% H:88.9% I:89.8% K:94.5%	・集団づくりについて児童生徒支援 Co.を中心に、具体的な取り組みの提案や助言を行った ・委員会活動の活発化をはかり、達成感を感じさせた ・子どもたち主体で、いろいろな取り組みを企画・運営させ、成功体験を増やした
(5)規律の共通認識と生徒理解 「ともに学びともに育つ」	D:80%以上* 肯定的回答	D:94.9%	・規律の共通認識を図れた ・支援の必要な生徒の理解を全教職員で深めた ・合理的配慮と基礎的環境整備を充実できた

### 目標設定区分3 『人の管理・育成』

<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準（各種調査、アンケート等）</b>		
●学校づくりへの参画メンバーの育成 (1)部担当からの発案の促しと委任 (2)学校⇔部・学年⇔学級という組織的な意思決定	学習・学校生活アンケート(教)の結果と、今年度末校内総括にて、取り組みに関する肯定的意見の向上 A:学校の向上や課題に対し、全職員で組織的に取り組んでいますか B:年度末総括の分析		
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>			
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>結果</b>	<b>評価</b>
(1)部担当からの発案の促しと委任	A:80%以上	A:89.5%	・ミドルリーダーとコミュニケーションを密にし、主体性を尊重した学年・部運営を進めた ・組織を動かす、学校を俯瞰するなどの観点についてのミドルリーダーを育成している
(2)学校⇔部・学年⇔学級という組織的な意思決定	A:80%以上 *肯定的回答	A:89.5%	・一つひとつの取り組みを理解し、しっかりと論議することで、イメージをそろえ、学校全体の組織として取り組む仕組みを意識づけた ・教育公務員としての自覚を促している

### 目標設定区分4 『地域連携と渉外』

<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準（各種調査、アンケート等）</b>		
●CSの基礎作りと地域への発信 (1)CSの基礎を作る 組織づくりや活動内容など、活動の基盤をつくる (2)地域へ存在をアピールする ●小中連携のつながり強化 (3)小中の教職員の交流を深め、9年間を見通した取り組みをすすめる	学校教育に関するアンケート(保)の学校と地域に関する内容の肯定的回答を増やす。または小中連携会議の年度末総括において取り組みに関する肯定的意見の向上 A:学校は保護者地域の願いに答えている B:暇中だよりや各会議において、保護者や地域に発信を行う C:年度末総括の分析		

(様式2)

B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
(1)CSの基礎を作る 組織づくりや活動内容など、活動の基盤をつくる	A:80%以上	A:89.5%	・CSの会議を重ね、市、畷中校区小中学校との連携をはかり、コミュニティスクールの基礎づくりを推進した
(2)CSの存在をアピールする	B:肯定的意見	B:82.6%	・畷中だよりや各会議にて、保護者や地域への発信を行った
(3)小中の教職員の交流を深め、9年間を見通した取組みをすすめる	C:肯定的意見	C:100%	・長期休業等に、小中学校合同研修を企画し、交流を深めた ・畷中校区小中連携会議にて、いきいき授業の交流や、各担当者の連携など計画的に実施した ・9年間を見通した、「めざす子ども像」を意識した連携ができた

## 5 総合評価と次年度に向けて

不登校及びその傾向のある生徒数が多いということが、本校が取り組みたい課題の1つである。特効薬的な対応は難しいが、「ひとり一人と学校がつながる」ことをめざして、担任任せにするのではなく、学校全体で不登校課題に取り組んだ。生徒理解を丁寧に行い、キーパーソンを中心に家庭訪問、別室(校内支援ルーム)登校、リモート授業など、多様な学びの場の充実を図った。

児童生徒支援コーディネーター、生徒指導主事、通級指導担当者、TM担当(指導教諭)、教務主任、学年主任など、学校運営の核となるメンバーとのコミュニケーションを密にして、課題にいち早く気づき、初期段階から丁寧な動きができるよう学校体制を整えつつある。

校区小学校とも引き続き連携しながら、9年間の子どもの育ちを丁寧にみていきたい。